

平成 30 年度事業報告

公益財団法人いばらき文化振興財団の設立趣意に則り、県民のニーズを踏まえた魅力ある文化振興事業を行い、個性豊かな地域文化の創造を図るため次の事業を行った。

総括的事項

第 4 期中期経営計画（2016 年度～2020 年度）に沿った運営に努めた。

- (1) 文化芸術に接する機会の提供については、クラシック音楽をはじめ、伝統芸能、舞踊等 32 事業を行い、個性豊かな県民文化の振興に努めた。
- (2) 文化芸術に関する活動への助成については、自主的で個性的な文化活動団体等 34 件に対し財政的な支援を行い、地域における文化芸術の振興に努めた。
- (3) 茨城県立県民文化センターの運営については、指定管理者として施設利用の促進をはじめ、利用者サービスの向上と施設の適正管理に努めた結果、施設全体の利用率は 73.6%、施設全体の利用者数は 609,734 人となった。
- (4) アクアワールド茨城県大洗水族館については、8 月の猛暑や台風、2 月連休の降雪等の影響により入場者数の落ち込みが見られたが、水族館が本来持っている「展示」「普及」「研究」の 3 つの機能を相互に連動させ、魅力ある海の総合ミュージアムとして効果的かつ円滑な展示と運営に努めるとともに、栃木・埼玉等近隣の道の駅、文化施設等での PR をはじめ、SNS を含む様々な媒体を活用した誘客活動を行った結果、1,119,813 人の入場者を迎えることができた。

1 公益目的事業 1（文化振興事業）

- (1) 自主公演事業（主催公演 9 事業、共催公演 16 事業、計 25 事業）

ア 普及事業（主催 3 事業）

第 44 回茨城県新人演奏会を開催し、新進演奏家に発表の場を提供するとともに、有望な演奏家の発掘に努め、本県音楽文化の向上を図った。また、松竹大歌舞伎及びブルガリア国立歌劇場公演に合わせて歌舞伎やオペラの歴史と本公演の見どころを紹介した講座を開催し、舞台公演に対する理解を深めてもらうことで文化芸術の普及を図った。

イ 参加創造事業（主催 4 事業）

世界有数の金管合奏団「ベルギー金管アンサンブル」と本県を代表する高等学校吹奏楽部 4 団体（大洗高校マーチングバンド部、佐和高校吹奏楽部、水戸女子高校吹奏楽部、茨城高校・中学校吹奏楽部）による合同演奏会を開催し、地元の高校生プレーヤーに貴重な体験・交流の場を提供するとともに、音楽の魅力や楽しさを広く伝え、本県音楽文化の活性化を図った。

また、茨城県新人演奏会の歴代受賞者や登録アーティストを活用し、独自に企画した演奏会を開催し、新進演奏家の支援と育成に努めた。

ウ 鑑賞事業（主催 2 事業、共催 16 事業、計 18 事業）

長い歴史を持つ日本の優れた伝統芸能である「歌舞伎」をはじめ、世界で活躍するウクライナのバレエ・カンパニー「キエフ・クラシック・バレエ」やウィンナ・ワルツの歴史と伝統を受け継ぐウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団による「ニューイヤー・コンサート 2019」など、県民要望に出来る限り応えることを目的に、多種多様なジャンルの舞台公演を楽しむ機会を提供した。

(公演実績)

区分	ジャンル等	実施日	公演名	会場	回数	入場者数	
普及事業	講座	7/28 (土)	舞台公演をより楽しむ会「歌舞伎」	県文小ホール	1	295名	
		10/17 (水)	舞台公演をより楽しむ会「オペラ」	県文小ホール	1	324名	
	新進演奏家育成	9/30 (日)	第44回茨城県新人演奏会	県文大ホール	1	604名	
参加創造事業	地域音楽活性	6/17 (日)	ブラスフェスティバル2018 「ベルギー金管アンサンブル+MISO」	県文大ホール	1	1,142名	
	新進演奏家育成	11/18 (日)	新人演奏会受賞者コンサート	常陽藝文センター	1	196名	
		1/19 (土)	新人演奏会歴代受賞者コンサート	県文小ホール	1	151名	
		3/16 (土)	ミュージックカフェ Vol.4	県文小ホール	1	303名	
鑑賞事業	主催	伝統芸能	7/28 (土)	松竹大歌舞伎	県文大ホール	1	956名
		演芸	12/1 (土)	笑劇!江戸前寄席	県文小ホール	1	350名
	音楽 クラシック	12/16 (日)	高嶋ちさ子と12人のヴァイオリニスト	県文大ホール	1	1,480名	
		1/12 (土)	ウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦 楽団ニューイヤー・コンサート2019	県文大ホール	1	526名	
		2/9 (土)	チェコ国立ブルノ・フィルハーモニー 管弦楽団	県文大ホール	1	708名	
	音楽 ポップス	5/27 (日)	miwa acoustic live tour 2018	県文大ホール	1	1,490名	
		6/9 (土)	財津和夫 2018 concert with 姫野達也	県文大ホール	1	1,375名	
		9/17 (月)	平原綾香コンサート	県文大ホール	1	1,457名	
		10/18 (木)	FUMIYA FUJII ANNIVERSARY TOUR 2018	県文大ホール	1	1,478名	
		3/21 (木)	米米 CLUB コンサート「おかわり」	県文大ホール	1	1,460名	
	音楽 その他	7/7 (土)	ビリー・ヴォーン・オーケストラ	県文大ホール	1	725名	
		9/1 (土)	ドラゴンクエスト ウィンドオーケストラ・コンサート	県文大ホール	1	940名	
		9/13 (木)	フォレスト・コンサート	県文大ホール	1	1,051名	
		1/13 (日)	ドラマチック・タンゴ	県文大ホール	1	1,325名	
	演劇	8/4 (土)	恐竜どうぶつ園	県文大ホール	2	3,012名	
	舞踊	4/6 (金)	風華国学・北京民族楽団	県文大ホール	1	1,082名	
		7/16 (月)	キエフ・クラシック・バレエ 「眠れる森の美女」	県文大ホール	2	997名	
	その他	2/24 (日)	米村でんじろうサイエンスショー	県文大ホール	2	1,714名	
	計25事業(主催9事業, 共催16事業)					28	25,141名

(2) 受託事業

ア いばらき文化芸術創造・発信事業

茨城県新人演奏会入賞者の新進演奏家をソリストに迎え、プロのオーケストラ（東京室内管弦楽団）に新人演奏会管弦楽団のメンバーを加えた楽団によるクラシックコンサートを牛久市と坂東市の2会場において入場無料で開催し、良質な音楽を提供するとともに、新進演奏家の育成を図った。

また、1890年に創設されブルガリアで最も古い歴史と伝統を誇る名門歌劇場によるオペラの傑作「カルメン」を催す等、海外の優れた舞台芸術を低廉な料金で提供し、本県の文化芸術の振興に寄与した。

さらに、児童生徒が体験をとおして優れた文化芸術に触れることができる「文化芸術体験出前講座」や「子ども文化芸術大学」を実施し、文化の担い手の育成と本県出身の文化活動団体等が活躍できる場を提供した。

(事業実績)

ジャンル等	実施日	公演名	会場	回数	入場者数
オーケストラ	8/25 (土)	みんなで楽しむオーケストラ ・8/25：畠山奏子（フルート）	牛久市中央生涯学習センター	1	881名
	8/26 (日)	・8/26：山崎未貴（ピアノ）	坂東市民音楽ホール	1	538名
オペラ	10/17 (水)	ブルガリア国立歌劇場「カルメン」	県文大ホール	1	1,124名
器楽	3/23 (土)	第15回茨城国際音楽アカデミー in かさま水戸スペシャル・コンサート	県文大ホール	1	813名
アウトリーチ	5月～2月	文化芸術体験出前講座 ・音楽：50校 ・美術（絵画・書・陶芸）：18校 ・伝統文化（華道・茶道）：12校	県内小中学校、 特別支援学校	80	11,613名
	9月～2月	子ども文化芸術大学 ・演劇：2校 ・ギター：2校 ・ダンス：2校 ・打楽器：2校	県内小中学校	8	1,375名
計4事業				92	16,344名

イ 文化プログラム推進事業

「いきいき茨城ゆめ国体・いきいき茨城ゆめ大会」及び「東京オリンピック・パラリンピック」の開催において、本県文化の魅力を国内外に発信することを目的に、広く県民の参加を得られ、かつ本県文化を認識してもらえる事業を昨年に引き続き公募した。また、昨年度優秀事業として採択された音楽劇「バガボンDSAKURA-GAWA」、リボン・アートボール、民話アーカイブの3事業を文化オリンピックアワード認証事業として実施し、本県文化の発信に努めた。

(事業実績)

実施日	事業名	会場	入場者数
通 年	県民企画公募型事業 ・文化プログラム企画公募 (7/1~8/31) ・優秀事業の選定	—	応募数：32 点 入選数：11 点 採択数：3 事業
10 月～3 月	文化オリンピックアード認証事業・平成 29 年度優秀事業の実施 (3 事業)		2,387 名
	・リボン・アートボール (10/17~10/21)	県陶芸美術館 他	
	・音楽劇 バガボンド SAKURA-GAWA (3/20)	県文小ホール	
	・茨城の民話を味わおう (アーカイブ件数 280 件)	—	
計 4 事業			—

(3) 文化芸術活動への助成

県内各地で自主的で個性的な文化活動を行っている文化団体等に対して助成を行い、活動の活性化に資するとともに、地域における文化芸術の振興に寄与した。

(助成実績)

申請件数	交付決定件数	助成件数	助成額 (円)
47	36	34	11,600,000

(4) 市町村文化施設及び地元演奏家への支援

県内の公立文化施設で構成する県公立文化施設協議会の会長館として会員館と連携を図り、情報交換及び職員研修等を行ったほか、県内で活動している音楽家や文化団体への支援を行った。

- ・茨城県公立文化施設協議会 会員館 : 34 館
事業内容：総会・各種研修会等の実施 (4 回)
- ・文化活動団体等への後援：11 件
- ・県内公立施設等への演奏家派遣：8 件 (9 名)

(5) 県民文化センター管理運営事業

[指定管理事業]

県民の文化活動の拠点施設として、利用者のニーズに対応しながら安全・安心で快適に施設が利用できるよう管理運営にあたった。

本年度における施設の利用率は新設された練習室の利用が進まなかったことから、施設全体の利用率は 73.6%と昨年度より下がったが、施設全体の利用者数は昨年より 12,112 人増え、609,734 人となった。

なお、開館から 50 年以上が経過し施設の老朽化が進行していることから、利用者の安全確保、不具合解消及び環境整備等を目的として計 48 件の修繕を実施し、施設の長寿命化を図るとともに利用者が安全・安心で快適に施設を利用できるよう努めた。

ア 施設の利用促進及びサービスの向上

(施設利用状況)

() は前年度実績

区 分	利用日数(日)	回 数(回)	利用者数(人)	利用率 (%)
大ホール	271(263)	670(645)	261,256(256,643)	88.9(85.7)
小ホール	277(244)	615(550)	78,545 (69,857)	82.9(84.7)
本館集会室	327(332)	3,280(3,491)	88,974 (93,592)	96.2(95.7)
分館集会室	318(318)	1,732(1,786)	41,660 (39,055)	93.0(93.3)
和室 (本館)	186(188)	396(402)	3,795 (3,523)	54.9(54.5)
一般展示室	287(288)	801(852)	68,681 (71,251)	87.2(85.0)
県民ギャラリー	234(200)	234(200)	65,721 (63,701)	70.3(59.5)
練習室	63(-)	120(-)	1,102 (-)	18.3(-)
計	1,963(1,833)	7,848(7,926)	609,734 (597,622)	73.6(79.6)

※利用率は、利用可能日に対する利用日数の割合。

(正味財産増減状況)

(単位：円)

事 項	平成 30 年度	平成 29 年度	比較増減
指定管理料収益	185,983,000	185,880,000	103,000
利用料金収益	108,422,739	105,315,223	3,107,516
手数料収益	5,583,343	5,221,869	361,474
雑収益	1,912,794	1,057,684	855,110
経常収益計	301,901,876	297,474,776	4,427,100
経常費用計	276,441,116	288,235,705	△11,794,589
当期正味財産増減額	25,460,760	9,239,071	16,221,689

(ア) 割引制度の継続実施

1月限定の施設利用料金50%割引を引き続き実施し、閑散期の利用促進に努めた。また、県民文化センターのホームページ等を活用した広報を実施し、利用料金割引制度の周知を図った。

(割引制度対象施設の利用実績)

区 分	平成 30 年度	平成 29 年度	比較増減
利用日数(日)	85	59	26
該当利用人数(人)	25,952	18,174	7,778
利用率 (%)	70.8	57.3	13.5

(イ) 新規利用団体への誘客及びリピーターの確保

- ・4月から音楽や舞踊などのリハーサルや練習場所として、練習室の貸出を開始し、HP及び催し物ご案内への掲載や申込時の案内等を行い新規利用団体の確保に努めた。
- ・リーフレット「催し物ご案内」を毎月11,000部作成し、県内の集客施設など約500団体へ配布することにより、催事情報の周知及び利用促進に努めた。
- ・催事や施設の空き状況等に関するホームページ情報を随時更新し、情報の提供に努めた。
- ・県内企業等訪問及び県外企業等へのダイレクトメール発送により、新規利用団体及びリピーターの確保に努めた。

(ウ) サービスの向上

- ・来館者と主催者双方を対象とする満足度調査（アンケート調査）を毎月実施して調査結果を分析し、利用者からの要望に対し迅速に対応した。
- ・予約管理システムの本格的な運用を開始し、リピーターの施設利用申込における手続きの軽減を図った。
- ・集会室専用のプロジェクタースクリーンを追加で購入するなど、備品を整備し利用者の利便性向上に努めた。
- ・仕事帰りの勤労者が利用できるよう、会場受付及び公演チケット販売業務について、平日の営業時間を午後7時までとする延長営業を継続して実施した。

(エ) ワンコインコンサート事業

500円という低廉な入場料金と県民文化センターグリルを演奏会場とすることにより、生の音楽演奏を気軽に身近で触れていただくことを目的としたワンコインコンサートを計6回開催した。

コンサート出演者については、茨城県出身・在住の演奏家を起用し、入場者にとって親しみやすいコンサートにするとともに、若手演奏家の発表の場の提供にも繋げた。

(開催実績)

開催回	開催日	内 容	出演者	入場者数
第22回	4/21(土)	尺八、ピアノ	小林 鈴勘, 若井 優也	58人
第23回	7/29(日)	ジャズヴォーカル、ピアノ	遠藤 さや, 遠藤 征志	43人
第24回	8/30(木)	マリンバ、パーカッション、ピアノ	高野 綾, 田村 拓也	50人
第25回	11/10(土)	ヴァイオリン、ピアノ	石坂 淑恵, 田中 英明	55人
第26回	12/22(土)	ソプラノ独唱	高橋 侑, 渡邊 真亜子	43人
第27回	3/3(日)	ピアノソロ	今井 美佳	71人
入場者数合計				320人

(オ) スタインウェイ体感事業

県民文化センターの備品であるスタインウェイ社製のフルコンサートピアノについて、有効利用を図るとともに、管理上も良好な状態を保つ観点から、大ホールの空き日を利用して、希望者に対し無料で演奏機会を提供する事業を計7回開催した。

(開催実績)

開催回	開催日	参加者数
第22回	4/21(土)	8人
第23回	5/5(土・祝)	8人
第24回	8/19(日)	8人
第25回	9/2(日)	8人
第26回	12/26(水)	8人
第27回	1/19(土)	8人
第28回	3/3(日)	8人
参加者数合計		56人

※原則定数8人のため、応募者多数の場合抽選により決定

(カ) 県民文化センター友の会の運営

財団主催事業の支援と広く文化芸術に触れる機会の提供を目的として友の会を運営し、会員のニーズに応えるべく各種事業を実施した。

- ・会員数 1,995人(平成31年3月31日現在)
- ・友の会だより発行部数 年間29,400部
- ・主な実施事業

研修旅行会(年1回開催)、観劇会(年3回開催)、総会及びアトラクション等の開催、チケット割引等各種会員向けサービスの実施、友の会ガイドブックの配布

(キ) 茨城県公立文化施設協議会の運営

加盟館34館から構成される茨城県公立文化施設協議会の会長館及び事務局として理事会、総会及び各種研修会を開催したほか、加盟各館との連絡調整等を行った。

(ク) 全国公立文化施設協会に関する事業

公益社団法人全国公立文化施設協会関東甲信越静支部委員として情報を収集するとともに、それを県内公立文化施設に提供するなどした。また、同支部自主事業部会副部長として、その運営を補佐した。

イ 安全・安心で快適な施設づくり

施設及び設備の老朽化が進む中、利用者の安全確保を最優先に考え、日々の点検やアンケートの結果を踏まえ、施設劣化の抑制に繋がる計画的な修繕を実施し、施設及び設備の長寿命化を図った。

(ア) 施設整備計画の策定及び修繕工事の実施

利用者の利便性向上・安全確保及び施設の老朽化対策を図るため、県と協議のうえ単年度計画及び中期修繕計画を策定し、指定管理事業部門修繕工事及び県直轄工事を実施した。

a 指定管理事業部門修繕工事

点検・巡視や利用者アンケート回答の結果を踏まえ、施設内照明のLED化工事（小ホールトイレ、集会室トイレ、集会室1～4号室）などを実施した。また、大ホール空調設備の整備をはじめ各設備の長寿命化を図るとともに、緊急性の高い危険箇所や不具合箇所については最優先に実施し、利用環境の向上に努めた。

【主な修繕工事内容】

小ホールトイレ照明LED化工事、小ホールロビー照明LED化工事、集会室トイレ照明LED化工事、練習室導線外灯工事、小ホールロビー電灯分電盤更新工事、展示室・ギャラリー壁面塗装など

(指定管理事業部門修繕工事实績)

件数	金額
計 48 件	16,468,351 円

b 県直轄工事

自動火災報知設備更新工事、スプリンクラー設備更新工事、展示室手摺改修工事など施設の安全性向上のための工事を行った。

また、スタインウェイ社製のフルコンサートピアノの良好な状態を保つためにオーバーホールを行った。

【工事内容】

自動火災報知設備及び非常放送設備更新工事、スプリンクラー設備更新工事、展示室手摺改修工事、分館引込電柱及び高圧ケーブル更新工事、スタインウェイオーバーホールなど

(イ) 危機管理対策

職員の危機管理意識と対応力の向上を図るため、職員や委託業務従事職員等を対象に防災訓練を年2回実施した。(地震訓練、火災訓練)

(ウ) 環境への配慮

公の施設として環境に配慮しながら省エネルギーを推進したほか、水戸市偕楽園公園に隣接する施設として環境美化に努めた。

- ・樹木等管理において、枯れ枝等の落下事故等が発生しないよう計画的かつ適切な伐採と剪定を実施した。
- ・花壇やプランターの整備により、環境美化に努めるとともに季節毎の演出を図った。
- ・ゴミの分別及びリサイクルに努め、排出量削減を図った。

2 収益事業1（県民文化センター自主事業）

（1）グリル・売店の運営

県民文化センターで開催される各種コンサートや展覧会等で来館する利用者の利便施設としての役割を果たすとともに、利用者へのサービス向上に努めた。なお、レストラングリル及び売店の利用者は63,728人で3,669人の増となった。

ア グリルの運営

- ・月替わりメニュー（特選メニュー）を提供しリピーター確保に努めた。
- ・大・小ホールや展覧会の打ち上げパーティー等宴会の受注に努め、売上増を図った。
- ・自家製弁当を6月以降再開し、売上増に努めた。
- ・大・小ホールに催し物がなく利用者が見込めない日等は休業とし、効率的な運営を図り、特に人件費の削減に努めた。

イ 売店の運営

- ・商品の入れ替えを定期的実施し、リピーター確保及び売上増を図った。
- ・営業時間を午前8時30分からと、30分前倒しし、利用者の利便性の向上を図った。

ウ 利用状況

（単位：人）

事 項	平成 30 年度	平成 29 年度	比較増減
グリル利用者数	29,855	29,803	52
売店利用者数	33,873	30,256	3,617
合 計	63,728	60,059	3,669

※グリル利用者数は、ホール利用者のほか、弁当注文者及びパーティー（宴会）等を含む。

エ 正味財産増減状況

（単位：円）

事 項	平成 30 年度	平成 29 年度	比較増減
飲食料収益	32,024,066	32,391,663	△367,597
売店収益	15,979,604	15,421,453	558,151
諸 収 益	2,944,717	2,813,098	131,619
収 益 計	50,948,387	50,626,214	322,173
グリル事業費	57,666,681	58,860,495	△1,193,814
当期正味財産増減額	△6,718,294	△8,234,281	1,515,987

（2）駐車場の運営

茨城県から管理許可を受けた千波公園・県民文化センター前駐車場を利用者が安全かつ円滑に利用できるよう管理運営を行った（利用に供した日数：365日）。

ア 利用状況

(単位：台)

区 分		平成 30 年度	平成 29 年度	比較増減
利用台数		164,582	137,461	27,121
料 金 徴 収 状 況	全額徴収	50,657	40,961	9,696
	1/4 免除	29,695	27,232	2,463
	1/2 免除	8,952	8,851	101
	全額免除	52,799	55,850	△ 3,051
	還 付	22,479	4,567	17,912

イ 安全対策

満車予定の催事開催日において警備員を増員し誘導を行ったほか、主催者に水戸市消防学校跡地を臨時の駐車場として借り上げるよう働きかけ、利用者の安全確保及び混雑緩和を図った。

(警備員増員実績)

事 項	平成 30 年度	平成 29 年度	比較増減
日 数 (日)	150	134	16
延べ時間数 (時間)	1,840.5	1,686.0	154.5
延べ人数 (人)	457	405	52
金 額 (円)	4,078,548	3,643,446	435,102

(臨時駐車場借上げ実績)

事 項	平成 30 年度	平成 29 年度	比較増減
回 数 (回)	140	130	10

ウ 正味財産増減状況

(単位：円)

事 項	平成 30 年度	平成 29 年度	比較増減
駐車場利用料収益	31,957,480	27,207,020	4,750,460
駐車場事業費	24,627,061	22,728,398	1,898,663
当期正味財産増減額	7,330,419	4,478,622	2,851,797

3 公益目的事業2（水族館事業）

アクアワールド茨城県大洗水族館は、基本テーマである「茨城の海と自然・世界の海と地球環境」に沿って、地域の自然と世界の水生生物の生態環境を通し、生物の多様性や自然環境・地球環境について、楽しみながら学ぶという教育と娯楽性を兼ね備えた施設として運営を行った。

また、水族館が本来持っている「展示」「普及」「研究」の3つの機能を相互に連動させ、魅力ある海の総合ミュージアムとして効果的かつ円滑な展示と運営に努めた。

誘客重点地域である栃木・埼玉県をはじめ、茨城県や群馬県における大型集客施設や東京都などでの各種キャンペーン活動の実施、新聞・テレビ等メディアへの積極的な情報発信、県内全線が開通した圏央道利用を視野に入れての観光業者への営業など、年間を通して広報周知に努め誘客活動を推進した結果、総入場者数は1,119,813人となった。

(1) 入場者実績

入場者数

(単位：人)

区 分	有料入場者					無 料 入場者	総入場者
	大人	小中	幼児	合 計	昨年度		
一 般	422,769	54,118	45,024	521,911	518,113	125,810	1,119,813
団 体 等	245,377	93,026	59,516	397,919	411,511		
年間パスポート	8,449	1,350	2,908	12,707	13,278		
年パス2回目以降	41,402	4,661	15,403	61,466	62,683		
平成30年度 合 計	717,997	153,155	122,851	994,003	1,005,585		
平成29年度	725,945	155,210	124,430	1,005,585	—	123,723	1,129,308
比較増減	△ 7,948	△2,055	△ 1,579	△ 11,582	—	2,087	△ 9,495

無料入場者内訳

(単位：人)

区 分	3歳未満	招待券	整理券	こどもの日	県民の日 (幼児)	合 計
平成30年度	93,566	14,857	12,023	4,621	743	125,810
平成29年度	90,786	15,789	12,509	3,862	777	123,723
比較増減	2,780	△ 932	△ 486	759	△ 34	2,087

※整理券：学校団体の引率等

(2) 飼育展示事業・調査研究事業

ア 魚類展示

魚類の飼育機器・施設の適切な管理を行い、生物の健康管理と安定した飼育環境作りに努めた。また、採集、購入、寄贈等の生物収集や繁殖した生物により、展示生物の更新や新規生物の開拓を行い、フレキシブルな展示を心がけ、広報誘客に繋げるべくそれらの情報発信を積極的に行い話題の提供に努めた。

(ア) 展示生物収集

各水槽の展示の充実を図るため、会瀬定置網や地元漁業者からの購入・寄贈、自家採

集，他園館との生物交換等を実施した。

(展示生物収集実績)

<計 383 回／収集生物点数 569 種 52,820 点>

収集方法	回数	種類数	点数	主な生物
会瀬定置網から購入	37 (乗船収集 4 回)	71	930	シロシュモクザメ・ゴマフシビレエイ・マンボウ他
活魚業者，漁業者から購入 (会瀬定置網を除く)	154	140	19,746	マイワシ・ヒゲツノザメ・オオワニザメ・サワガニ 他
漁業者等からの寄贈	97	84	6,960	キタクダヒゲガニ・カワアナゴ・コバンザメ・ヌマガレイ 他
県調査船 (いばらき丸)からの寄贈	16	66	699	サンゴノフトヒモ・サケビクニン・コツノガニ 他
自家採集 (酒沼，大洗マリーナ，駿河湾等)	50	137	22,559	イサザアミ・シラウオ・シロウミウシ・メンダコ 他
生物交換【搬入】(室蘭水族館，なかがわ水遊園，加茂水族館，他 9 園館)	13	36	405	アツモリウオ・オイカワ・クラゲ類 他
生物交換【搬出】(室蘭水族館，なかがわ水遊園，小樽水族館，茨城県栽培漁業センター他 9 園館)	16	35	1521	サンゴトラザメ・ハナビラクマノミ・クロヘリメジロザメ・タヌキメバル 他

(イ) 生物展示の充実

- a 「紅海水槽」を「サンゴ礁のドロップオフ水槽」に全面リニューアルし，展示の刷新を図った。
- b 会瀬定置網で採れた希種ゴマフシビレエイを 2 尾展示中である。
- c 室蘭水族館（姉妹水族館）との生物交換で，オホーツクホンヤドカリ，ヒダベリイソギンチャク等を搬入し，オホーツク海関係の展示の充実に努めた。
- d 日本では 2 館のみで展示している稀少なイモリザメは，3 月 31 日現在で飼育日数が 6,240 日に達し，日本における飼育記録を更新中である。
- e 第 26 回企画展「毒ラボ」，第 27 回企画展「食ざんまい」において生体展示や付帯事業を行った。それぞれ，エラブウミヘビ等 21 種 114 点，エゾアワビ等 12 種 1,000 点を展示した。
- f 7 年ぶりに深海性のヒゲツノザメを入手し展示中である。

(ウ) 広報資料提供

- a カガミダイ及びシラウオの展示等で 5 本のマスコミリリースを行った。
- b NHK 水戸放送局の「いばっチャオ！」等 9 本のテレビ・ラジオ取材に対応した。
- c 読売新聞に毎週連載の「いきもの日記」において，展示生物の紹介記事を 29 回掲載し，広報宣伝の一助とした。

(エ) 生物の繁殖育成

サメ・エイ類では、スモールスポットドキャットシャーク・トラフザメ等 11 種約 140 点、サメ・エイ以外の硬骨魚では、ダンゴウオ・ババガレイ等 8 種、無脊椎類ではタコクラゲ、アマガサクラゲ等 8 種が繁殖し、一部を展示に供した。

また、ナースハウンドにおいて単為生殖が見られた。

(オ) 調査・研究

- a 茨城県に来遊するサメ類の調査として、シロシュモクザメ等 3 種 3 点を収集し、各部を計測後解剖しデータを収集した。
- b アカウミガメ 1 個体の標識放流を行い、漂着したウミガメ類 11 個体を解剖しデータを収集した。
- c 大洗マリーナ内で 5 回の潜水目視調査を行い、季節毎の来遊魚を観察し、一部を採集展示した。
- d 県内の魚類相調査で、オオモンハタ、タヌキメバルの 2 種を初記録として茨城県自然博物館に登録した。
- e 国際水産資源研究所と共同で水槽内におけるマンボウの行動について 24 時間観察を 2 回行った。
- f 中央水産研究所と共同でナースハウンドの単為発生について DNA 解析を行った。

(カ) 研究発表

- a ニチリンヤナギクラゲに与えた代用餌料の有効性（公益社団法人日本動物園水族館協会全国水族館飼育技術者研究会；口頭発表）
- b オスがいない飼育下で単為発生したナースハウンド（^{ばんさいりい}板鰓類研究会；口頭発表）
- c シロワニ飼育の近況 ～アクアワールド茨城県大洗水族館～（シロワニ繁殖協議会国際シロワニシンポジウム；口頭発表）
- d アクアワールド茨城県大洗水族館第 22 回企画展「カニマニア王国」の紹介（日本甲殻類学会誌；投稿）
- e 磯採集から展示・解説活動の実践 —アクアワールド茨城県大洗水族館「水族館をつくろう」の事例から—（日本動物園水族館教育研究会誌；投稿）

(キ) 展示解説等

水中対話ショー「アクアウォッチング」において、夏期特別展・クリスマスなどの館内イベント開催中に特別バージョンを実施したほか、サメやマンボウ、出会いの海の大水槽で飼育員による給餌解説を実施した。また、館内及びバックヤードの案内を希望する団体等に対して臨時解説を実施した。

(ク) ミュージアムパーク茨城県自然博物館水系展示水槽管理委託事業

県自然博物館の水系展示水槽の委託業務として、展示生物の入手及び水槽・水質の維持管理を行い、平成 31 年 3 月末現在、ニッコウイワナ・ウグイ・ドチザメ等 102 種 1,204 点を展示した。また、館外においては、大洗マリーナでの潜水採集、流れ藻乗船採集、いばらき丸底曳き網乗船調査等で収集を行い展示生物の充実を図った。

また、海の日やサイエンスデーでは、「バックヤードツアー」事業に協力したり、標本資料の保管、博物館の定期刊行誌に寄稿するなど、博物館との連携協力に努めた。

イ 海獣展示

展示については、イルカ・アシカオーシャンライブの充実を図り、変化に富んだ演技などで誘客促進に努めた。繁忙期には、オーシャンライブの回数を増加し対応した。

また、新たに生物の生態等情報の提供及び閑散期の誘客対策として、イルカ・アシカの生態や健康管理方法などを解説するレクチャー型ライブを、1月21日（月）から3月15日（金）の平日に限り合計で39日間実施した。

繁殖事業については、生物の血縁関係や雑種防止などを考慮してペアリングさせ、健全な繁殖計画を推進した。

新規搬入動物については、6月25日（月）にミナミアメリカオットセイ2頭（オス、メス）を京都水族館より搬入し、10月19日（金）から一般公開し展示を開始した。

調査研究については、茨城県沿岸にストランディング（漂着）した生物の調査、研究を関係団体と協力して実施した。

（ア）展示の充実

ライブ演出、イルカの出演頭数等見直しを図り、見ごたえのある内容を目指し工夫をした。またオーシャンライブの目玉でもある「ランデヴー」を毎回のライブで取り入れるよう努力した。夏期期間は、イルカ乗りやロケットジャンプなどの水中パフォーマンスの演出、ハロウィンやクリスマスなど季節毎に実施するイベントとのタイアップなど、斬新なライブプログラムを提供した。

（イ）生物繁殖事業の推進

鯨類は、デモプール・ホールディングプールで種別に適切なペアリングを計画的に実施した結果、バンドウイルカ「モモ」の妊娠がほぼ確認できたが、早期流産で死産であった。

鰭脚類^{ききやくるい}については、日中及び夜間に同居させるペアリングの工夫を実施した結果、カリフォルニアアシカ（愛称：プリン）が妊娠をし、9月14日（金）に出産（性別：メス）をして順調に育成中である。

エトピリカは、8卵の産卵が確認され、2個体が順調に成長している。また、ペンギンについても、昨年度生体交換をした新江ノ島水族館、浅虫水族館から搬入したペンギンの産卵があり、3羽のペンギンが順調に育成中である。

（ウ）調査・研究活動の推進

ストランディングについては、鯨類14件、鰭脚類1件の調査を実施し、各種データの収集に努めた。

（エ）展示解説等

エトピリカ・ゴマフアザラシ・ラッコ・フンボルトペンギン・カリフォルニアアシカ・カピバラの6種の給餌解説「お食事タイム」を実施した。10月19日（金）からは、カリフォルニアアシカの給餌解説をミナミアメリカオットセイに変更し、アシカ、アザラシ、オットセイの違い等を分かり易く解説した。その他の屋外動物については、鳥インフルエンザの影響がなかったため、ペンギンの散歩、カピバラ銭湯を計画通り実行できた。

(3) 教育普及事業

生物や環境などについて、誰もが気軽に楽しみながら学ぶことができる活動を展開するため、展示物及び設備や人材の活用を図り、館内外で解説・講習・自然体験塾等の活動を実施した。さらに、「水族館探検ツアー検討会議」を設け、新たな事業展開を検討した。

また、ホームページや機関誌を通して水族館に関連した各種情報の提供に努めるとともに、学校等からの要請により、自然観察会や講演会等への講師派遣のほか、移動教室を開催した。同様に、教育機関からの実習・職場体験学習等各種団体の研修の受入れを行うとともに、生涯学習施設としてボランティア活動支援を行った。

ア 発見体験学習

生物や自然環境、水族館に対する理解を促すため「自然体験塾」や大人向け講座「マスタースクール」、「さかなの絵コンクール」等の事業を実施した。

(自然体験塾) 23 事業 / 定員 567 名 / 応募総数 3,095 名 / 参加総数 430 名

実施日	内 容	対 象	定 員	応募者	参加者
4/15 (日)	イルカトレーニング®の秘密	小学生以上	15 名	81 名	15 名
4/22 (日)	サメ飼育体験	小学生以上	15 名	76 名	13 名
5/12 (土)	バッコ釣り	小学生以上と保護者	20 名	92 名	19 名
5/19 (土) ~20 (日) 9/1 (土) ~2 (日) 9/29 (土) ~30 (日) 10/13 (土) ~14 (日)	水族館ナイトキャンプ (5 回実施) 夜の水族館と展示生物の生態 観察と館内ナイトキャン プ。1 泊 2 日で実施。	小学生以上 大人限定 (20 才以上)	225 名 各回 45 名	1,587 名	208 名
2/23 (土) ~24 (日)					
5/26 (土)	涸沼の生き物観察	小学生以上と保護者	20 名	21 名	18 名
6/16 (土)	船から探る大洗の海 (午前・午後各 1 回)	小中学生と保護者	48 名 (各 24 名)	130 名	荒天中止
6/23 (土)	那珂川中流大探検	小学生以上と保護者	15 名	40 名	14 名
6/30 (土)	親子で水族館をつくろう	小 4~6 年と保護者	15 名	41 名	11 名
7/7 (土)	ペンギン飼育体験	小学生以上	10 名	124 名	11 名
8/5 (日)	親子で飼育体験 (魚類編)	小学生以上と保護者	10 名	135 名	11 名
8/18 (土)	親子で飼育体験 (魚類編)		10 名	96 名	10 名
8/26 (日)	親子で飼育体験 (海獣編)		10 名	245 名	10 名
10/20 (土)	アート教室 「空想すいぞくかん」	小学生	45 名	16 名	16 名
11/4 (日)	魚の体のつくりを調べよう	小学 4~6 年生	10 名	17 名	7 名
11/10 (土) 3/2 (土)	カムバックサーモン (2 回シリーズ)	小中学生と保護者 2 回参加	30 名	27 名	14 名
1/19 (土)	イルカ飼育体験	小学生以上	10 名	188 名	12 名

1/26 (土)	「かまぼこ」づくりにチャレンジ	小学生以上と保護者	25名	60名	18名
2/16 (土)	クラゲのふしぎ	小学生以上	14名	84名	8名
3/9 (土)	アユのふしぎ	小学生以上と保護者	20名	35名	15名

(大人向け「マスタースクール」)

4事業/51名

実施日	内 容	対 象	定 員	応募者	参加者
6/3 (日)	水族館獣医の仕事	中学生以上	15名	17名	15名
9/9 (日)	イルカ・アシカの不思議	中学生以上	15名	20名	13名
12/16 (日)	サメのからだの秘密	中学生以上	15名	42名	15名
2/3 (日)	マンボウに迫る!	中学生以上	15名	17名	8名

(参加型事業)

2事業/延べ 495 作品

さかなの絵コンクール (事前に館内写生会開催)	展示生物を題材に絵画の制作機会を提供し、提出作品の作品展を開催。写生会を10月に計4日間開催。館内展示と表彰式を開催。	小学生 178名 (入賞11人)
絵てがみ展	季節行事や動植物、自然をテーマにした作品展の開催。毎月の優秀作品を選考して館内に展示。通年。	制限なし 応募 317 点

イ レクチャー及び展示解説

展示生物や自然・環境に対する理解を深めてもらうために、入館者を対象に展示生物の生態等に関する解説サービスとして各種ショープログラムを実施した。

(実施実績)

名 称	内 容
なるほど魚っちんぐ	お魚発見教室内レクチャールームにおいて、生物の特徴をクイズ形式で解説。新規に作成したテーマを含め、複数テーマをランダムに実施。 通年4回/日実施 <参加者数 27,571名>
アクアウォッチング	出会いの海の大水槽において、ダイバーが映し出す水中映像を通して生物の特徴や生態の紹介と質問タイムを提供。季節毎に特別バージョンを実施。 通年4回/日実施 <参加者数 121,569名>
お食事タイム	展示生物の給餌の様子を公開しながら、生物の特徴や生態の紹介と質問タイムを提供。 対象生物ごとの実施回数、参加者数は以下のとおり。 エトピリカ： 2回/日 <参加者数 22,161名> ゴマフアザラシ： 2回/日 <参加者数 21,239名> ラッコ： 3回/日 <参加者数 16,024名> ※11月27日ラッコ死亡により中止 フンボルトペンギン： 3回/日 <参加者数 100,436名> カリフォルニアアシカ：1回/日 <参加者数 15,308名> ※10月20日よりミナミアメリカオットセイに変更 カピバラ： 1回/日 <参加者数 20,225名>

水族館探検ツアー	普段見ることができない水族館の裏側を案内、解説。 3回/日実施 ＜参加者数 11,051名＞
スポットガイド	水槽前にてタブレット等を使用し見どころを解説。解説内容・場所は日替わりでランダムに実施。9月より試行的に開始し、現在は1日1回実施。
＜探検ツアー検討会による新規展示解説＞ ①バックヤードウォーク ②プチ探検ツアー	① 6階キーパーデッキを使用した「バックヤード ウォーク」を4/28(土)～5/6(日)、7/14(土)～9/2(日)、1/1(火)～1/6(日)の66日間の繁忙期間限定で実施。＜延べ参加者数 170,844名＞ ② 閑散期対策の一環として、1～2月に気軽に参加できる30分の「プチ探検ツアー」を1日4回実施。＜前年度同時期探検ツアー実績比較 1,575名 ⇒ 3,063名＞

ウ コンピュータ情報運用管理

館内の情報端末において、水槽展示生物トピックス情報や環境保全、水族館の機能や役割等に関して情報発信を行ったほか、コンピュータシステムの正常な稼働を確保するための管理を行った。

また、ホームページのアクセス件数は次のとおり約1割減少した。

(アクセス件数：1,390,286件(昨年度1,548,239件) 1日平均3,810件(昨年度4,242件))

エ ボランティア活動支援

生涯学習の一環として、大洗水族館で活動しているボランティアグループ「マンボラクラブ」の支援を行った。毎月1回役員会を開催し、要望の集約・活動課題、研修計画等の検討・整理を進めるとともに、クラブ員を随時募集して登録者の増加を図った。

(活動実績)

＜新規加入/2名。平成31年3月31日現在の登録者/76名＞

期 日	内 容	参加人数
6/24(日)	第17回マンボラクラブ総会を開催し、感謝状授与、活動実績報告及び活動計画、新役員選出と内部講師による講話を実施	39名
10/13(土)	全体研修を「東京・国立科学博物館」で実施	39名
11/3(土)～4(日)	マンボラクラブ活動発表会「マンボラフェスタ2018」を開催	延べ29名
11/24(土)	ミュージアムパーク茨城県自然博物館ボランティア25名との交流会を実施	参加6名
年度内	自然体験塾「水族館ナイトキャンプ」ほかプログラム計11回、磯観察会3回に支援参加	延べ18名
年度内	入館者を対象に5階バックヤードにおいて、ミニ探検ツアーを計25回実施	参加者計145名
◎ボランティア役員会議12回実施・年間活動者数 延べ1,643名/8,097時間		

オ 機関誌「Sea遊」の発行 ＜発行部数 34号11,300部 35号11,300部＞

水生生物等への理解促進を支援するとともに、水族館のイメージアップ、広報を図るため、展示生物の興味深い生態やトピックス等の様々な情報を紹介する機関誌を年2回(第34・35号)発行し、国内の動物園・水族館をはじめ、県内教育機関及び栃木県の小中学校、群馬県、千葉県、埼玉県の一部の小中学校へ配付した。

カ 企画展

常設展では表現できないテーマを取り上げて、生物や自然環境についての理解を促進するため、企画展を実施した。また、2019～2020年度企画展テーマの検討を行った。

(実施実績)

名 称	内 容	開催期間
第 26 回企画展 「毒・ラボ ～こちら大洗 海洋毒生物研究所～」	海洋生物の毒に注目し、毒に対するイメージを“単なる恐怖”から“深い興味”へと転換することを目的とし、生体展示を通して生物の持つ毒と、その毒と係わる生き物たちの紹介。	平成 30 年 1/13 (土) ～5/6 日)
第 27 回企画展 「食ざんまい ～いばらきおさかな天国～」	茨城の海の恵みや漁業への関心・注目を促すことで海や漁業を身近に感じてもらうことを目的とした企画展。付帯事業として、茨城県水産試験場と連携した「いばらき丸船内ラリー」(51名参加)などを実施。	平成 31 年 1/26 (土) ～5/6 (月)

キ 深海ゾーン・海の生き物科学館及びお魚発見教室展示機器等の運用管理

各アイテムの展示機能を確保するため、随時、生物の補充や散発的に発生した動作不良、部品交換等の各種不具合の迅速な解消に努めた。お魚発見教室内の書籍を充実させ、図書コーナーとし来館者の利便性を図った。また、タッチングプール及びその周辺の実施設計を行った。その他、将来の展示物更新のために資料を収集した。

ク 自然教室等への講師派遣

教育機関等の要請に応じ、水生生物や環境等をテーマとして各種館外活動を行った。

- ・ 磯観察会では、主に熊谷市内の小学校 29 校が、大洗の海に生息するヒトデやウニなどの生物に触れる観察会を実施した。
- ・ 県内中学校から講師派遣依頼を受け、総合的な学習の時間で計画された「職業人の話を聞く会」において進路選択に繋がる講演を実施した。
- ・ 県内小学校をはじめ、県立こども病院入院中の児童を対象に「実際に海の生物に触れる体験」となる移動教室を実施した。

(派遣実績)

<延べ 56 団体 参加者総数 4,637 名>

名 称	対 象	内 容	参加者数
・ 自然観察会 ・ 講演会 ・ 授業等	計 45 団体 (熊谷市立小学校磯観察会 29 校、 水戸市立常澄中学校ほか 16 団体)	学校主催の磯観察会における生物の観察、採集方法や生物の特徴等解説。学校授業等への参画・支援。	2,695 名
移動教室等	計 11 団体 (茨城県立こども病院ほか)	水族館や生物に興味を持ってもらうため、無脊椎動物や剥製へのタッチングを実施。	1,942 名

ケ 研修会等の受入れ

教育機関や団体からの要請に応じて、水生生物や飼育設備等をテーマとして各種館内活動を行った。

(研修会等受入れ実績)

<延べ 77 団体 参加者総数 3,458 名>

名 称	対 象	内 容	参加者数
バックヤード見学	計 67 団体 (鹿沼市立板荷小学校ほか)	大型水槽裏側を中心とした飼育設備の概要説明と飼育解説。	3,159 名
館内レクチャー・講話等	計 3 団体 (県立竜ヶ崎第一高等学校ほか)	総合学習等、生き物や飼育に関する講話やインタビューに対応。	56 名
夜の水族館	計 6 団体 (常陸大宮市立西小学校ほか)	照明を消した館内で、昼間と異なる生物の生態観察の場を提供。	236 名
水族館での手話コンテンツ鑑賞実験	筑波技術大学	聴覚障害者に向け作成した解説手話プログラム動画の有効性の実証実験に協力した。	7 名

コ 実習生等の受入れ

博物館相当施設として社会教育機能の役割を果たすため、実習生等を受け入れた。

(実習生等受入れ実績)

<延べ 65 件 参加者総数 119 名>

名 称	対 象	内 容	参加者数
学芸員・飼育実習	計 37 件 (北海道大学ほか)	大学・専門学校の単位取得を目的とした実習生の受入れ。	38 名
職場体験学習	計 22 件 (日立市立大久保中学校ほか)	中学生の将来の職業選択や勤労の意義を学ぶ場としての機会を提供。	73 名
インターンシップ	計 6 件 (県立那珂湊高等学校ほか)	高校生・大学生の就業意識の向上や新たな学習意欲を喚起するための機会を提供。	8 名

サ 生物解説アプリ

新たな生物解説のアイテムとして、スマートフォンを活用した「かざすAI図鑑」(リンネレンズ)導入の準備を行った。

(4) 交流・連携事業(誘客促進)

30年度はさらなる飛躍を目指し、誘客促進活動を推進した。特に、圏央道の県内区間全線開通による広域的な道路整備により、さらに近くなった首都圏を意識した情報発信に努めた。

主たる営業として、圏央道周辺の埼玉、千葉両県をはじめとした近隣地域に、移動水族館や観光キャンペーン、観光業者訪問、道の駅等公共施設へのリーフレット・チラシ等配布を行ったほか、県内外の市町村教育委員会を通じ、児童家庭へ割引券配布を2回実施した。

また、主にインターネットを利用し情報収集をしている若い世代への広報として、インターネットへの広告掲載を昨年度に引き続き行ったほか、SNSや主要新聞社、テレビ・ラジオ局などマスコミを活用した情報発信に努めた。

夏期特別企画では、「とぶ生き物大図鑑」の周知広報を行い、ハクトウワシやフクロウをはじめとする猛禽類や、ほ乳類、爬虫類、両生類の生体展示を行ったほか、フクロウとの記念撮影などのイベントを実施した。

閑散期対策事業として、「ウィンター☆ワンダーイルミネーション」を11月23日(金)から実施。また、11月17日(土)から1月14日(月)までミニ企画「ビックリ!貝まつり」「ガールズ&パンツァー×アクアワールド・大洗」を合同開催した。さらに、大洗町を舞台とした

アニメ「ガールズ&パンツァー」の声優を招いたトークイベントを実施し、アニメファンの集客に努めるとともに、大洗町の観光振興に寄与した。

連携事業では、茨城・栃木・群馬・福島4県の動物園水族館9園館による「ファイト9」連携キャンペーンを6月2日（土）にアクアマリンいなわしろカワセミ水族館で、3月17日（日）に群馬サファリパークで開催し、園館のマスコットキャラクターが集合してPRを行った。

ア 広報実績

テレビ・ラジオや新聞等の取材には積極的に対応し、当館の魅力を紹介した。

本年度についても、県内及び千葉県・埼玉県・栃木県などの若者や女性を対象としたメディアを活用しPRに努めた。

インターネット広告として、ポータルサイトの大手である「Google」や「Yahoo! JAPAN」の広告配信システムを利用し、当館のターゲットとする客層（趣味が旅行、動物好き…等）へ情報発信を行うとともに、東京都内の小学生に対して、子ども向けの環境新聞に広告を掲載するなど、教員や保護者だけでなく、児童に対しても直接周知を行った。

さらに、首都圏の若い女性を意識した広報として、雑誌『Hana k o』ムック本とのタイアップ記事広告や東京ガールズコレクション《秋冬号》の公式冊子に大型広告を掲載するなど、流行の発信者である女性に対するPRを行った。

(広報実績)

広報媒体等	有料広報	無料広報	計
新聞掲載	23件	218件	241件
タウン誌	8件	12件	20件
情報誌	24件	93件	117件
広報誌	16件	21件	37件
テレビ	36件	48件	84件
ラジオ	2件	3件	5件
Web	32件	20件	52件
その他	9件	2件	11件
合計	150件	417件	567件

イ 記念式典事業

年間入場者の節目となる式典開催と関連催事を実施した。

(実施実績)

式典名	開催日
年間入場者100万人達成セレモニー	2月16日（土） 322日目

ウ アンケート調査の実施

(ア) 毎月第4日曜日車両調査, 特定日調査 (GW, お盆)

(イ) 毎月第4日曜日入館者調査

エ 催事等

(ア) 催事実績

期 間	催 事 名	期間内入場者
2/24(土)~4/8(日)	開館 16 周年記念イベント 「アクアワールド☆感謝祭」	129,870 人
4/28(土)~5/6 月(日)	GWイベント 「キッズカーニバル 2018」	85,529 人
6/1(金)~7/7(土)	七夕イベント	94,017 人
7/1(日)~7/31(火)	第 43 回動物愛護標語募集	114,149 人 応募作品数 74 通
8/8(水)	サマーナイト	3,356 人
9/22(土)~10/31(水)	ハロウィン☆パーティー2018	110,112 人
11/1(木)~11/30(金)	年間パスポート所持者限定プレゼント 2018	イベント参加者 7,033 人
11/23(金)~12/25(火)	アクアワールドクリスマス 2018	58,843 人
11/23(金)~2/28(木)	ウィンター☆ワンダーイルミネーション	202,785 人
12/16(日)	ガールズ&パンツァートークイベント 「祝・新生徒会長就任!五十鈴華さんバースデー トークイベント in アクアワールド・大洗」	イベント参加者 抽選 672 人
12/28(金)~1/14(月)	仲良シッシッシ year! 2019	62,029 人
2/23(土)~3/31(日)	開館 17 周年記念イベント 「アクアワールド感謝祭 2019」	106,951 人
計	12 事業	975,346 人

(イ) 特別展示実績

実 施 日	催 事 名	期間内入場者
7/14(土)~9/17(月)	夏期特別企画「とぶ生き物大図鑑」	339,727 人
11/17 (土) ~1/14 (月・祝)	ミニ企画「ビックリ!貝まつり」展 ミニ企画「ガールズ&パンツァー× アクアワールド・大洗展」	136,385 人

(ウ) 移動水族館実績

実施日	催事名・場所
4/21(土)～22(日)	花海廊事業連携 (国営ひたち海浜公園内)
6/16(土)～17(日)	フクダヤインターパーク宇都宮
10/13(土)～14(日)	花海廊事業連携 (国営ひたち海浜公園内)
11/3(土)～4日(日)	イオンモール高崎
3/2(土)～3(日)	イオンモール土浦
5 事業	

(エ) キャンペーン及び誘客営業の活動実績

実施日等	キャンペーン名
5/12(土)～13日(日)	PR キャンペーン(イオンモール土浦)
6/2(土)	ファイト9連携キャンペーン (いなわしろカワセミ水族館)
6/10(日)	茨城県フェア (イオンモールつくば)
6/29(金)	茨城県人会連合会懇親会 (椿山荘東京)
7/1(日)	茨城県フェア (イオンモール与野)
7/16(月)	いばらきの夏観光キャンペーン (ベルモール宇都宮)
10/10(水)～12日(金)	第27回ふるさと観光展 (仙台駅コンコース)
11/10(土)	第11回東京都食育フェア (代々木公園)
1/18(金)～19日(土)	いばらき早春の観光キャンペーン (東京シティアイ)
2/3(日)	いばらきの春観光キャンペーン (イオンモール北戸田)
3/3(日)	いばらき県産品まつり 2019 (水戸偕楽園)
3/10(日)	いばらきの春観光キャンペーン (イオンモールむさし村山)
3/17(日)	ファイト9連携キャンペーン (群馬サファリパーク)
通年	県内外集客施設及び観光施設リーフレット等配付 (県内外の道の駅・大型図書館等の集客施設に割引券付リーフレットの配布)
通年	観光エージェント訪問 (期間限定商品等の県内外への営業訪問の実施)
通年	チラシ・ポスター送付及び各県民の日割引の周知活動 (茨城県、栃木県を中心に埼玉県、千葉県、群馬県及び福島県へ情報提供。) (各県民の日の割引について、集客施設へのポスター掲出や地元新聞等へ記事掲載。)
通年	県内外の小学校への営業活動 (茨城県、栃木県、千葉県、埼玉県、群馬県の各市町村の教育委員会を直接訪問し、小学校等へチラシや割引券を配布。)
通年	マスコットキャラクターの活用 (着ぐるみ用のハロウィン衣装、クリスマス衣装を制作し、来館者のお出迎え、記念撮影を実施。)
計 18 事業	

(5) 管理運営部門

ア 管理運営

施設の適正な管理に努めるとともに、健全な職場環境維持の一環として、特にパワーハラスメントに主眼を置いた研修を全職員対象に実施し、その知識や防止対策習得に努めた。

さらに、ストレスチェックを財団全体で実施するとともに、水族館産業医との連携を密にしながら、メンタルヘルスケアの強化にも努めた。

さらに、入場者の安全確保及び迅速な避難誘導を行えるよう、通常実施している消防訓練のほか、地震による津波を想定した防災訓練や、AED及び救命救急講習を開催し、危機管理対応力の向上に努めたほか、原発事故の風評被害払拭のため、放射線量の測定を毎日継続するとともに、その結果をホームページにて日々公表し安全性のアピールにも努めた。

ゴールデンウィーク期間やお盆期間等の繁忙期における駐車場混雑緩和対策としては、大洗港第4埠頭を臨時駐車場として借用し、無料のシャトルバス運行を行った。さらに、渋滞緩和策として、隣接する大洗公園駐車場の一部を7月14日(土)から8月19日(日)の期間借用し、入場者へのサービス向上に努めた。

イ テナント関連事業

マーケットプレイス連絡会議の事業では、休館日を利用しておもてなし向上セミナーを受講するとともに、上野動物園及び上野周辺の商業施設を視察し、先進施設のノウハウの習得に努めた。

また、屋外イス塗装など備品の整備やサービス向上を図るとともに、季節の飾りつけなどで賑わいのある演出を行い、利用促進を行った。

ウ 施設整備

中長期修繕計画を基本に各種修繕工事を実施するとともに、強風や台風といった自然災害等による突発的な修繕に対応するなど安全対策に努めたほか、オーシャンシアター前列座席の更新や一般駐車場の海側部分を整備し、駐車台数の拡充を図った。また、昨年度に引き続き、5階バックヤード床クラック修理、魚類海水揚水ポンプ更新他、延べ215件(昨年255件工事)の修繕工事を実施し施設環境の向上に努めた。

さらに、機械設備の経年劣化に対応するため、フードコート他冷暖房用の空調設備更新工事や、自動火災報知設備感知器等の更新、停電時に安定して電気を供給するため受変電設備操作用の直流電源設備の更新など大型工事を実施した。

省エネルギーに関しては、省エネルギー委員会を毎月開催し、職員の省エネ意識の向上を図るとともに、省エネ対策として、上水や海水の使用量の見直しやLED照明への転換を進め省エネに努めた。

4 収益事業2(水族館売店事業)

(1) 物販部門

地域に貢献する観光拠点施設としての役割を踏まえ、スーベニアショップ「モラモラ」及びミュージアムショップ「ガレオス」は、各々のコンセプトを基に商品構成を工夫し、店舗づくりに努めた。

モラモラにおいては、ホームページを活用した告知や、館内マップを利用した商品案内などを行った。特に夏期特別企画や第26回企画展などの関連商品をオリジナルで展開し、販売促進に努めた。

また、3月の周年祭から販売開始した「ふかひれスープ」は、「鮫カレー」に続くマーメイドとのコラボ商品の第2弾として商品展開することができた。

さらに、ミュージアムショップ「ガレオス」では、店舗名であるサメを意識した商品や、専門性のある商品を充実させて、モラモラとの差別化を図り、売上向上に努めた。

年末年始には、福袋を今年度初めてモラモラからガレオスに移して販売し、入館者の館内誘導を図った。

(2) 飲食部門

コーヒESHOP「マーメイドギャラリー」においては、昨年度から販売を始めたモラモラとのコラボ商品である「鮫カレー」や、周年祭に合わせて販売開始したコラボ第2弾の「ふかひれスープ」が客単価アップの要因になった。また企画展等に合わせたタイアップメニューの提供や、季節毎に人気メニューの導入などの商品展開を図った結果、開館以降過去2番目の売上高を記録した。

また、プラスチック製ストローの廃止にも取り組み、紙ストローへの転換や、その他のカトラリー類も木製に切り替えるなど、海洋汚染や環境問題に取り組む姿勢を打ち出した。

ア 売上実績

(単位：円)

物販部門		飲食部門	
区 分	売上金額	区 分	売上金額
モラモラ・ガレオス	587,158,767	マーメイドギャラリー	84,830,650
自動販売機	9,346,551		
合 計	596,505,318	合 計	84,830,650
水族館売店事業合計		681,335,968	

イ 利用率

物販部門		飲食部門	
総入場者数 (A)	1,119,813 人	総入場者数 (A)	1,119,813 人
利用件数 (B)	311,488 件	利用件数 (B)	97,521 件
利用率(B) / (A)	27.8%	利用率 (B) / (A)	8.7%

※利用件数は、レシート発行数（総入場者のうちレジを利用した人数）

ウ 正味財産増減状況

(単位：円)

事 項	平成 30 年度	平成 29 年度	比較増減
収益事業収益	690,119,915	689,433,337	686,578
経常費用	658,509,363	659,560,651	△1,051,288
当期正味財産増減額	31,610,552	29,872,686	1,737,866

5 法人運営事業

茨城県立県民文化センター及びアクアワールド茨城県大洗水族館を効果的効率的に運営管理するため、理事会及び評議員会をはじめ、諸会議の開催、財務及び組織の管理、第4期中期経営計画の進行管理等を行った。

(開催実績)

項目	開催日	議案
監事監査	平成30年5月15日	平成29年度事業報告及び決算等
平成30年度第1回理事会 (出席人数 9/11)	平成30年5月17日	第1号議案：平成29年度事業報告及び決算について 第2号議案：平成30年度定時評議員会の開催について
平成30年度定時評議員会 (出席人数 9/12)	平成30年6月4日	第1号議案：評議員の選任について 第2号議案：理事の選任について 第3号議案：平成29年度事業報告及び決算について
平成30年度第2回理事会 (決議の省略による理事会)	平成30年6月4日	提案事項1：代表理事（理事長）の選定について
監事監査	平成30年11月29日	平成30年度上半期事業報告及び収支決算等
平成30年度第3回理事会 (出席人数 11/12)	平成30年12月20日	第1号議案：平成31年度上半期自主公演事業の計画(案)及び収支見込み(案)について
平成30年度第4回理事会 (出席人数 11/12)	平成31年3月25日	第1号議案：平成31年度事業計画(案)及び収支予算(案)について 第2号議案：「働き方改革」対応に伴う諸規程の改正(案)について 第3号議案：主たる事務所の所在地の変更(移転)について 第4号議案：平成30年度臨時評議員会の開催について
平成30年度臨時評議員会 (決議の省略による評議員会)	平成31年3月29日	提案事項1：理事の選任について